



Title	中国における日本語専攻学習者の動機減退構造：社会・教育環境との関連から [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	許, 晴
Citation	北海道大学. 博士(学術) 甲第13628号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/74405
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Xu_Qing_abstract.pdf (論文内容の要旨)



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）

氏名：許 晴

学位論文題名

中国における日本語専攻学習者の動機減退構造
-社会・教育環境との関連から-

中国では、日本語学習者のうち、高等教育段階の学習者が 60%以上を占める。しかし、近年、高等教育段階での学習者数の減少傾向が見られる（国際交流基金 2017）。また、実際の教育現場では、特に日本語を専攻とする大学生の動機減退が指摘されている。

近年、動機づけは社会的文脈と関わりながら変動すると捉えられているが、動機減退は、動機づけと同様、学習環境や社会的文脈と緊密に関わっている。本研究では、地域により教育発展に大きな格差があり独特の戸籍制度と大学入試制度を持つ中国の社会的文脈に注目し、大学において日本語を専攻する学習者の動機減退構造と社会・教育環境との関連について検討を行った。

本論文は 8 章からなる。

第 1 章では、本研究の社会的・教育的背景を述べた。社会的背景として、中国の行政区と戸籍制度に関する基礎的概念を整理した。教育的背景では、中国の高等教育の発展と分類を提示し、教育社会学の視点から、中国における教育機会の地域格差と高等教育発展水準の地域格差を議論した。また、専攻の「振り分け」に重点を置いて、大学入試制度を述べた。最後に、中国における日本語教育の発展と現状と日本語専攻学習者の特徴を提示した。

第 2 章では、先行研究のレビューを行った。まず、本研究における「動機づけ」と「動機減退」という中心的概念の定義を行った。次に、動機減退研究が動機づけ研究の位置づけを示し、よく使用される動機づけの理論的枠組み「統合的・道具的動機づけ」理論と「内発的・外発的動機づけ」理論について説明した。

そして、先行研究のレビューでは、第二言語習得分野における動機減退に関する代表的な先行研究 22 本を詳細にレビューした上で、研究対象別、研究目的別、研究方法別にまとめ、国別、文化圏別に研究結果を分析した。第二言語習得分野以外に、日本語教育分野における動機減退の研究 3 本と、中国人日本語専攻学習者を研究対象とした学習動機と動機減退の研究をレビューし、研究結果をまとめた。最後に、中国における日本語専攻学習者を対象とする「動機減退研究の必要性と欠如」、「社会・教育的環境と動機減退の関連づけの少なさ」という 2 点から先行研究の間

題点を指摘した。

第3章では、本研究の目的を述べた。リサーチクエスションは、(1)中国における日本語専攻学習者の動機減退要因は何か。(2)教育や経済発展の格差の大きい中国では、教育と経済の発展を反映する学習者の出身地が動機減退と関連するか、また、どのように関連しているか。(3)中国の独特の大学入学制度の中で、「専攻の振り分け」により、学習者の動機減退要因の構造は異なるか、である。

第4章は、以上の3つのリサーチクエスションを念頭に置き、研究方法を詳述した。半構造化インタビューから、ボトムアップ方式による質問紙の作成過程について述べた。半構造化インタビューを通じて、従来の動機減退研究に見られなかった学習者の出身地と入学制度に関する要因が新しく発見できた。作成した質問紙を使用し、予備調査、本調査A、B、Cを実施した。

第5章から第7章では、研究1～研究3の具体的研究内容および結果について述べ、考察を行った。

第5章では、中国における日本語専攻学習者の動機減退要因について研究を行った。予備調査を経て、質問紙調査の結果を分析した結果、以下が明らかになった。まず、日本語主専攻学習者の動機減退要因構造として、5因子が抽出された。それぞれは、「内発的動機づけと学習能力の欠如」、「日本語学習困難」、「運用能力と達成感の不足」、「教師」、「専攻選択上の問題」である。動機減退要因としては、「内的要因」が主要な要因である。専攻選択上の問題」という要因は先行研究に見られない特別な要因であった。

第6章では、教育と経済の発展状況を反映する学習者の出身地が動機減退と関連するかについて検討した。インタビューのデータを分析した結果、出身地が動機減退の一つの要因として作用する可能性が提示された。質問紙調査のデータを分析した結果、大学所在地の教育発展指数により、学習者の出身地と動機減退要因の関連性の強さと内容は異なる。上海市の大学では、学習者出身地の県間差異は戸籍間差異より動機減退との関連が強い。一方、湖南省の大学では、学習者出身地の戸籍間差異は県間差異より動機減退との関連が強い。そして、県間差異に関しては、上海市の大学に在籍する学習者は湖南省の大学に在籍する学習者より、動機減退との関連が強いなどの結論が得られた。

第7章では、「専攻の振り分け」により、学習者を日本語志望群と日本語非志望群に分類し、それぞれの動機減退因子を明らかにした。また、入学制度と動機減退要因の考察を行った。調査した結果、日本語志望群と日本語非志望群の動機減退要因の構造は異なる。日本語非志望群の動機減退要因には、「日本語学習資質の不足」、「有能感の不足」、「予想外の教室内学習の苦しさ」、「学習量による学習困難」、「進路選択上の日本語の重要性の低下」という5因子からなる。日本語非志望群は教師に依存する傾向があり、努力して勉強しようとする姿勢が窺えるが、言語学習のレディネスができていない中で、努力はしているものの学習成果が伴わず、動機が減退していることが窺える。日本語志望群の動機減退要因には「成績と運用能力への落差感」、「授業テンポの速さによる学習困難」、「自信と興味の喪失」、「専攻選択上の問題」、「学習への非強制欲求」の5因子である。日本語志望群であっても、必ず

しも動機が減退しないとは限らない。

第8章では、本研究の結論を述べ上で、総合考察を行った。特に、中国における日本語専攻学習者の動機減退の特性、社会文脈要因による学習者の多様化、中国における動機減退の多様性という3つの側面から、考察を行った。

本研究で明らかにした中国日本語専攻学習者の動機減退要因は、学習場面における「内発的動機づけと学習能力の欠如」、「日本語学習困難」、「運用能力と達成感の不足」、「教師」という学習文脈要因と社会文脈の影響を受けた「専攻選択上の問題」と「学習者出身地の地域格差」という社会文脈要因に分類することができる。他には、親の職業と社会的地位、家族の経済状況、民族属性など本研究で検証されなかった社会文脈要因があると予想されるが、本研究で検証した社会文脈的要因によって、学習者の多様性を12タイプに分けて提示した。中国における日本語専攻学習者の動機減退は教育・社会的文脈、学習文脈の両方の中で起きている。まず、教育・社会的文脈という大きな環境があり、学習文脈が教育・社会的文脈の中にあり、教育・社会的文脈の要因がすべて学習文脈に直接に影響するという構造になっていると考えられる。

本研究は学習者の全体的な動機減退要因と社会・教育的環境と動機減退要因の関連に重点を置いた。今後の課題として、他の社会的要因も取り入れ、多面的、総合的に分析することが必要であり、学習適性、学習観など学習者の個人特性がどのように動機減退に関連するかについても検討する必要がある。

(以上)